

1 単元「生きもの大すき」

2 指導観

【こんな子どもだから】

- 本学級の子どもたちは、1学期の「生き物大好き」の学習で川遊びに行き、水辺の生き物とふれあう活動を体験している。生き物との出会いに感動し、育ててみたいという思いを抱いている子どもたちも多い。生き物への興味・関心も高く、通学路や遊びの中で見つけた生き物のことを、朝の会のスピーチなどで話したり、3年生からもらったヤゴの成長に興味をもち、意欲的に世話や観察をしたりと、生き物とのかかわりが、生活の一部になっている子どもたちもいる。しかし、1学期の活動は、クラスの中で生き物好きな子どもたちが中心になって世話をし、その他の子どもたちは気が向いたときにかかわる程度であり、生き物の立場に立った世話の仕方を意識しているとはいえない子どもたちもいる。継続的に飼育する活動を通して、一人一人が生き物に愛着をもってかかわることができるようにしていく必要がある。
- 本研究を進めるにあたって、1学期のはじめに子どもたちの実態調査を行った結果、「上手にできることや得意なことがありますか」という設問に、「いいえ、どちらかというといいえ」と答えた子どもたちが5人いた。2学期のはじめには、その数が7人に増え、自分に自信をもつことができている子どもたちが増えたことがわかった。生活科の学習には、どの子も意欲的に取り組み、1学期は、ミニトマトを育てる活動を通して毎日きちんと水やりをしたり、天気を見て水の量を加減したり、友達の子ミニトマトと比べてみたり、日々の成長の様子をしっかりととらえたりと、愛着をもってかかわり、いろいろなことに気付くことができた。そして、収穫の時期にはどの子どもたちも喜びを感じ、大切に家に持ち帰る姿が見られた。このように、子どもたちは活動や体験を通して多くのことに気付いている。このような気づきを友達と伝え合ったり、認め合ったりする活動を通して、友達のよさや自分自身のよさ、そこから生まれる可能性に気付くことができるようにしていく必要がある。

【こんな教材で】

- 「生きもの大すき」は、継続的に飼育する活動を通して生き物への愛着をもち、それらが生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物を大切にすることができるようにしたり、活動を通して友達や自分のよさに気付いたりすることができる教材である。
飼ってみたいと思う生き物や、自分でつかまえた生き物を飼育することで、子どもたちは生き物の様子をよく観察するようになる。また、生き物のアップの写真を提示することで、体のしくみの複雑さに気付いたり、自分が飼育している生き物の顔の表情を捉えることができるようになったり、体の動きからその生き物の思いを想像したりと、生き物に寄りそって世話をすることができるようになる。そして、生き物を継続的に飼育し、日々の変化に喜びを感じながら、生き物への愛着をもつことができるようになっていく。

しかし、飼育の途中で突然の死に直面することもある。このようなできごとを通して、子どもたちは命のつながりや生命の尊さを感じ、命を大切にしようとしていく。それは、たとえ育てていた生き物が死んでしまったとしても、今度は卵を産んでいる土を大切にし、新しい生命の誕生を待つ姿として表れてくる。

友達と交流する活動では、飼育方法のよさを伝え合ったり、自分の生き物の自慢をし合ったりする中で、友達から認めてもらい、自分自身のよさに気付いていくことができる。さらに、自分が心を込めて世話した結果が生き物の成長となって表れることで、生き物を大切にすることができた自分自身のよさにも気付くことができる。そしてそのよさは、その後の活動への意欲や自信につながっていく。

本教材は、継続的な飼育活動を通して、成長や変化、生命の尊さなど、様々なことに気付くことができる。そして、これらの活動を通して自分自身のことを理解し、自分のよさや可能性に気づき、生き物とのかかわりを深めて生活することへの意欲や自信を高めることができる教材である。

【こんな子どもに】

- 継続的な飼育活動を通して、語りかけたり生き物の気持ちになって考えたりしながら生き物に寄り添い、愛着をもって進んでかかわろうとする子ども。
- 生き物の育て方を調べたり、友達と交流して飼育のよさを認め合ったりアドバイスし合ったりする中で、よりよい世話の仕方を考えて活動しようとする子ども。
- 生き物を飼育する活動を通して、生き物には生命があり、日々成長しているということに気づき、どんなに小さな命でも大切にしようとする子ども。
- 生き物を大切にすることができる自分自身のよさや、これからも飼育していくことができそうだという可能性に気付くことができる子ども。

【こんな方法で】

①意欲や自信をもつための活動

- 他者とのかかわりを取り入れた学習活動
 - ・ 上級生から飼育の仕方について話を聞いたり、上級生から認められたりすることで、自分のこれまでの飼育を振り返って考え、自信をもつことができるようにする。
 - ・ 同じ生き物を育てている友達同士で観察したり、飼育方法について交流したりすることで、友達のよさに気付いて真似したり、認めたり、認めてもらったりして、意欲的に活動したり、自分の飼育方法のよさに気付いて自信をもったりすることができるようにする。
 - ・ 飼育ケースを持ち帰ったり、生き物の様子を伝えたりする中で、家族から認められ、自信をもつことができるようにする。
- 肯定的評価を得られるような学習活動の工夫
 - ・ 友達から良いところを認めてもらったりアドバイスをもらったりして世話の仕方を交流する中で、肯定的評価を得られるようにする。

②自分のよさや可能性に気付く表現活動

- 見つける、比べる、たとえるなどの学習活動の工夫
 - ・ 継続的に飼育する活動を通して、日常的な会話による自分の生き物の変化や世話の仕方について表現できるようにする。

- ・全体では出てこないような表現が生まれるようにするために、生き物がもっと喜ぶ世話について、二人組で交流する。
- 互いに伝え合い交流して気付きを共有し、質的に高めていく表現活動の工夫
- 相手意識、目的意識をもった表現活動の工夫
- ・図鑑で調べたことや世話の仕方で行ったことを子どもたちがカードに書き、掲示版に掲示しておくことで、みんなに自分のよさを伝えることができるようにする。
- 子どもの特性に合った、多様な表現活動の工夫
- ・生き物の気持ちになって手紙を書いたり、絵本を作ったりすることで、子どもの思いを引き出し、自分の飼育を振り返ってそのよさに気付くことができるようにする。
- ・友達や家の人に、単元全体を通して自分が成長したと思うことを発表し、よさを認めってもらうことができるような場をもつ。

3 単元の目標

- 身近にいる生き物と直接触れ合い、飼育する活動を通して、生き物が育つ環境やその変化に関心を持ち、愛着をもってかかわることができる。
- 身近な生き物を直接飼育する活動の中で、したこと、見たこと、感じたこと、考えたことなどを表現することができる。
- 生き物を飼育し、表現し、交流する活動を通して、生き物は生命を持ち、成長していることに気付くとともに、自分のよさや可能性にも気付き、大切にすることができる。

4 指導計画（全14時間）

	配時	学習活動と内容	教師の支援	期待できる姿
つかむ	1	○ 生き物を育てた経験を発表し、これから育ててみたい生き物を話し合う。	○ 事前に、生き物の絵本の読み聞かせをしておき、生き物への興味・関心を高めておく。	○ ダンゴムシを育てたい。
5		【表現活動】 ・これまでの経験や、これから育てたい生き物について話し、活動への見通しをもつ。	○ 一学期のうちから、いろいろな生き物を育てたり、話題にしたりしておく。生き物を育てた経験のない子どもたちには、一学期にクラスでヤゴやメダカ、ザリガニなどを飼っていたことを想起させる。身近なところから生き物を探してきた子どもたちがいた時は、取り上げて話題にする。	○ 変化がわかりやすい生き物を育てたい。 ○ ○○を育てたい。さがしに行きたい。 ○ 秋は、どこにどんな生き物がいるのかな。どんな生き物が育てられそうかな。
	1	○ 秋には、どんな生き物がどんな場所にいるのかを調べ、育てたい生き物を考える。	○ 図鑑などで調べるだけでなく、上級生や家の人から聞く方法もあることに気付かせる。	○ 図書館で調べたい。家から図鑑を持って来よう。お家の人に聞いてみよう。6年生に聞いて

	2	○ 生き物さがしに行く。	○ 一学期のうちから、学校や地域で生き物がいた場所をマップに表しておき、生き物がいそうな場所を予想させる。また、危険な生き物についても事前指導しておく。	みよう。 ○ A公園に行きたい。B公園に行きたい。
	1	○ 生き物の世話の仕方を調べる。	○ 教室に生き物の図鑑を準備しておき、同じ生き物を育てる子どもたちでグループになり、世話の仕方を調べる。	○ 土を5cmくらい入れたほうがいいみたいだよ。
さ ぐ る 6	2	○ つかまえた生き物を育て、観察する。 【表現活動】 ・育て方を友達と交流し、自分の育て方と友達の育て方を比べることを通して、それぞれのよさに気付く。 ・観察してわかったことを観察カードに書き、自分のお世話を振り返る。 ・観察してわかったことを絵や文章に表し、絵本を作る準備をしていく。 【表現活動】 ・困っていることについて、上級生に聞く。	○ 同じ生き物を育てている子どもたち同士で互いに相談したり、教え合ったりできるように、場の設定をする。 ○ 生き物の図鑑を教室に置いておき、わからないことはすぐに調べることができるようにしておく。 ○ 生き物を触ることができない子どもたちは、友達と一緒に世話をし、次第にかかわることができるようにしていく。 ○ 観察カードには、生き物の気持ちを想像しながら文を書かせることで、自分のかかわり方を振り返ることができるようにする。 ○ 毎週、観察した様子を絵に描き、絵本ができるようにしておく。 ○ 困っていることについては、クラス内での交流だけでなく、上級生からも教えてもらうことができるよう、朝の会で、育てるヒントをもらう場を設定する。	○ えさを探しに行こう。えさは、毎日替えたほうがいいよ。 ○ 木の枝を入れてみよう。 ○ 石を入れてあげるといいよ。 ○ かくれる場所があるよ。 ○ たまごが産まれたら、別の入れ物に入れま す。 ○ えさは、他にも○○をよく食べるよ。
	1	○ 生き物の気持ちになって手紙を書く。	○ 相手意識をもたせ、育ててくれた人(自分)に対して手紙を書かせる。手紙には、これまで自分がしてきた世話についての思いや願いが表れるように書かせる。	○ ○○さんが、・・・な気持ちで育ててくれたから、安心してきたよ。

	<p>1 本時</p>	<p>○ 手紙を読み、生き物の世話の仕方について交流する。 【表現活動】 ・ 友達の世話のよさを伝えたり、よりよい世話の仕方についてアドバイスをしたりする。</p>	<p>○ 友達から、良いところを認めもらったり、アドバイスをもらったりすることで、世話の仕方について交流できるようにする。 ○ うまくいったこと、うまくいかなかったことを思い出させながら交流させる。生き物が喜ぶような世話の仕方について意識させ、交流活動に意欲的に参加できるようにする。 ○ 交流活動を通して、友達から認めもらうことで、自分の育て方のよさに気付かせ、自信へとつなげる。また、友達にアドバイスすることで、人の役に立つことができたことに対しても自信をもつことができるようにする。</p>	<p>○ 割れた植木鉢だと、かくれる場所がいっぱいでいいね。○○さんの考え、すごいね。 ○ えさは、○○よりも○○の方がよく食べたよ。○○くらい大きさが食べやすいみたい。</p>
	<p>2</p>	<p>○ 交流活動で新しく知ったことを生かし、生き物が過ごしやすいように、工夫して世話をする。</p>	<p>○ 活動が進まない子どもたちには、前時に書きまとめたプリントを参考にして、交流活動や上級生の話を聞いてわかったことを生かして活動できるよう支援する。</p>	
<p>深める</p>	<p>1 3</p>	<p>○ 生き物の気持ちになって、育ててくれた人（自分）に手紙を書く。 【表現活動】 ・ 生き物の気持ちになって手紙を書き、自分の育て方を振り返り、そのよさに気付く。また、友達のアドバイスへの感謝も表す。 ・ 生き物の成長する様子を絵本にして表現することで、自分の成長に気付く。</p>	<p>○ 今まで育ててくれた人（自分）への感謝の手紙になるような声かけをする。また、アドバイスしてくれた友達と交換して読むことで、アドバイスした子どもたちの自信となるようにする。 ○ 育てていた生き物が死んでしまったときは、一緒に死に向き合い、それまでの世話の仕方を振り返るとともに、生き物の生き方を知らせ、命のつながりについて考えていくことができるようにする。</p>	<p>○ いつもおいしい餌をいれてくれてありがとう。○○な気持ちで育ててくれていたんだね。</p>
	<p>1</p>	<p>○ 生き物を育てる活動を通して、自分の成長を振り返る。</p>	<p>○ 生き物の気持ちになって書いた手紙をもとに、自分のこれまでの世話を振り返り、自分のよさや</p>	<p>○ 生き物の気持ちになって、最後まで大切に育</p>

	<p>1 ○ 学習を通して自分が成長したと思うことを、友達や家の人に発表する。</p>	<p>成長に気付かせていく。また、命のつながりについても、これまでの考え方と比べることで、自分の成長に気付くことができるようにする。さらに、自分が成長したと思うことを、どんな方法で発表したいか考えさせる。</p> <p>○ 友達から認められ、自信をもつことができるようにするために、友達の発表について感想を言う時間を取る。また、学習を参観しての感想や、単元全体を通しての感想を、子どもたちの学習カードに書いてもらえるよう保護者に依頼し、子どもたちが認められる場を増やし、自信をもつことができるようにする。</p>	<p>てることができた。生き物が死ぬのはかわいそうだけど、命をつなぐために頑張っていることがわかった。</p> <p>○ 生き物をさわることができるようになったので、触ります。コオロギは、こういうふうに羽をこすり合わせて鳴きます（体で表現）。</p>
--	---	--	---

5 本時

平成21年10月5日（月） 5校時

6 本時の目標

- これまでの飼育活動を生かし、友達と進んで交流することができる。
- 生き物の立場に立ったよりよい飼育の仕方について考えて伝え合い、世話をすることができる。
- 交流活動を通して友達の飼育のよさに気付くとともに、それを伝え合う活動を通して、生き物を大切に育ててきた自分自身のよさや、これからも大切に育てていくことができそうだという自分自身の可能性に気付いていくことができる。

7 本時指導の考え方

子どもたちはこれまでに、自分でつかまえた生き物を、経験を生かしたり、飼い方を調べたり、友達や上級生から聞いたりして大切に育ててきているところである。毎日の世話や観察を通して、子どもたちは自分が育てている生き物に愛着をもつことができるようになってきている。

前時に、子どもたちは生き物の気持ちになって、育ててくれている人（自分）に手紙を書いている。その手紙を読むことで、これまでの世話の仕方を振り返り、これからの活動の見通しをある程度もつことができている。しかし、自分の経験や気付きだけでは不十分なこともある。

そこで本時は、前時に書いた手紙を読み合い、互いに尋ねたり教え合ったりして交流し、育て方のよさを認め合ったり、アドバイスをし合ったりすることができる時間とした。自分が育てている生き物の気持ちになって手紙を書いたり、言葉で表現したりすることによって、友達からの肯定的な評価やアドバイスをもらうことができると考えた。肯定的な評価を得る

ことで、子どもたちは、自分に自信をもつことができる。また、友達のアドバイスは、これからどのように飼育していったらいいかという見通しをもったり、自分にもできそうだという可能性を見出したりするきっかけとなる。さらに、友達への肯定的評価をする中で、よさを認める目が育ち、友達の飼育方法にアドバイスすることで、友達に教えることができた自分のよさに気付くこともできると考えた。

子どもたちの気付きを適切に取り上げ、比較したり関連付けたりしながら、子どもたちが自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって飼育活動を充実させていくことができるよう称賛したり、子ども同士も積極的によさを認め合うことができるよう声かけをしたりしていきたい。

自分の思いを表現し、それに共感してもらうことは、子どもたちにとって次の活動や表現への意欲となる。本時は、飼育方法でうまくいっていることや困っていること、自分が育てている生き物の特徴や自慢などを積極的に伝え合う。そして、友達の考えに共感しながら交流活動を進めていくことを大切にしていきたい。

8 準備

【子ども】 生き物、生き物の気持ちになって書いた手紙、えさ

【教師】 学習プリント、生き物の顔の拡大写真（掲示物）、生き物の世話の仕方（掲示板）、えさ、土、霧吹き、ペットボトル、つまようじ、竹串、わりばし、

9 本時の展開

学習活動及び内容	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・生き物の気持ちになって手紙を書いたこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達の生き物と比べながら、生き物がもっと喜んでくれることを見つけてお世話しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時学習の見通しをもつ。 <p>2 手紙の内容を交流し、活動を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に書いた手紙を互いに読み合う。 ○ 自分と同じ生き物を育てている友達同士で、生き物の様子について話したり、手紙の内容について質問したりしながら、飼育活動の工夫に気付き、よさを伝え合う。 ○ 困っていることを伝えてアドバイスをし合ったり、自分の生き物の特徴や自慢 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に、育てている生き物ごとに場の設定をし、交流活動がしやすいように、2～3人のグループを作っておく。 ○ これまでの学習を想起させながら意欲を高め、本時学習のめあてをもたせる。 ○ 友達のいいところを見つけること、自分が知っていることや自分の生き物のことを友達にも積極的に話すことを確認する。 ○ 友達の発表をよく聞きいて質問したり、虫かごの中の様子をよく観察して自分のものと比べたりしながら、飼育のよさを認めたり、困っていることについてアドバイスしたりできるよう声かけをする。その際、これまでの飼育で気を付けてきたことや、掲示物を参考にして考えさせる。 ○ えさの種類、与え方、大きさ、土の量、その他の虫かごの中の環境など、よさを見つけたり、アドバイスしたりする視点を与える。

を伝え合い、これからどんな世話をしていくか考える。

○ 友達によさやアドバイスを生かして世話をする。

- ・飼育箱の中を掃除する。
- ・餌の種類を変える。
- ・新しい餌をやる。
- ・土の量を増やす。
- ・葉っぱの量を増やす。
- ・木を入れて、遊び場所を作る。
- ・石と石で、どうくつのような隠れ場所をつくる。
- ・死んでしまった生き物の墓をつくる。
- ・草を探しに行く。
- ・飼育ケースから出すなどして、虫の強さや元気な様子を確かめ合う。

3 今日の学習を振り返る。

○ 本時で友達から言われてうれしかったことや、アドバイスをもらってわかったこと、活動したこと、これから工夫したいことなどを書き、手紙を読み合ったグループ内で伝え合う。

○ 交流会を通してわかった飼育のよさや、これからしていきたいことを、グループの代表子どもたちが発表する。

○ 「〇〇だったから・・・」というように、これまでの経験と関連付けて考えることができるように、経験を想起できるような声かけをする。

※友達と進んでかかわり、めあてに向かって意欲的に取り組んでいる。

【行動・発言】

※自分の生き物の様子を、相手にわかりやすく伝えている。また、友達の飼育のよさに気付いて認めたり、困っていることについてアドバイスしたりしている。

【行動・発言】

○ 活動を工夫できるように、餌や土を準備し、自由に使えるようにしておく。必要があれば、外に出てもよいことを伝える。

○ これまでいくつかの生き物を飼育してきた子どもたちが、それぞれの生き物に共通して言えることに気付いたときは、その気付きを取り上げて認め、自分のよさに気付かせる。

○ 友達によさを認めたり、教えてもらってわかったこと、やってみての変化、これから工夫しようと思うことなどをグループ内で交流させ、互いのよさを認め合う場とする。また、自分のよさに気付いた子どもたちには、そのよさを認め、自信となるような声かけをする。

○ 交流会を通してわかったこと、友達のすごいところ、このことはみんなに知らせたいと思うようなことを全体で交流させる。

※友達との交流を通して、自分のよさに気付くことができる。

【発言・学習カード】

※友達から認めてもらったことや、教えてもらったことをもとに、これからの飼育への見通しをもつことができる。

【発言・学習カード】